

# 校長通信

東京都立戸山高等学校

校長 布施 洋一

## 大学見学会に参加して

期末考査が終わり夏休みを間近に控えた7月12日（水）、大学見学会が行われました。

本校の大学見学会は、2年生全員を対象とする進路行事です。生徒は首都圏にある11大学（東京大学、筑波大学、一橋大学、東京学芸大学、千葉大学、東京工業大学、東京農工大学、東京外国語大学、横浜国立大学、首都大学東京、東京女子医科大学）の中からひとつを選び、訪問します。自分が行きたい大学を選ぶ生徒もいますし、自分が将来専門に勉強したい分野の話が聞ける大学を選ぶ生徒もいます。各大学では、概要説明や施設見学だけでなく、本校生徒のためだけの模擬講義、研究室訪問や講義見学、本校の卒業生を含む学部生や大学院生との懇談等、それぞれの大学の特色を生かした充実したプログラムを用意してくれています。

私が約50名の生徒と一緒に訪問した東京大学では、生物生産工学研究センター環境保全工学研究室の野尻秀昭教授のご理解のもと、多くの東大の学生さんやスタッフの方々に協力していただきました。当日は、まず野尻教授から東京大学の紹介と、ご専門である環境微生物学について特別講義をしていただいた後、5つのグループに分かれて研究室を訪問し、実際に学部生や大学院生が行っている研究の一端に触れることができました。その後再び全員が集まって、大学生活の様子や大学での研究活動の様子等について、お二人の大学院生からお話を伺い、生徒からの質問にも丁寧に答えていただきました。大学2年までは全員が教養学部にも所属し、様々な学問の基礎を幅広く学んだうえで自分の専門分野を決めることができる東京大学の魅力や、大学では自ら研究に取り組む主体性と異なる価値観を受け入れる多様性が求められること、東大生には時間の使い方と心の整理が上手な人が多いこと、現役合格が理想だが、たとえ失敗しても第一志望を諦めない強い意志があれば周囲も協力してくれること等のお話が、野尻教授や学部生、大学院生から実感をもって語られ、生徒たちは自らの進路についてはもちろん、大学で学ぶことの意義や今後の高校生活の過ごし方等について、多くの示唆を受けたことと思います。最後に野尻教授から「近い将来君たちと駒場の教養学部の教室で再会したい」との激励のお言葉をいただき、解散後は多くの生徒が安田講堂の地下にある中央食堂で思い思いのランチタイムを楽しんでいました。

ところで、先日読んだ「科学立国日本を築く PART II」（日刊工業新聞社）という本の中で、様々な分野でイノベーションを成し遂げた研究者たちが「イノベーション創出の要諦」というテーマで行ったパネルディスカッションの様子が書かれています。大変示唆に富んだ内容なのですが、私が特に印象に残ったのは、様々な出会いが得られる環境の重要性を多くの研究者が口々に語っていることです。もちろん「成功しよう」とか「イノベーションを興そう」という意識があるからこそ、偶然の出来事や人との出会いをプラスに変えていくことができるわけですが、若い頃からそのようなご縁や導きを得られるよい環境に身を置くことが、新たなイノベーションの創出につながっているのだと思います。

大学全入時代も近いと言われ、高大接続改革が進められるなか、多くの戸山生が難関国公立大学を目指すのは、少しでもよい環境に身を置くことで、多くの人と出会い、自らを高めたいと考えているからです。その思いがある限り、人はどこまでも頑張れるし、道は必ず開けてくると確信しています。